

### 令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州中野おごっそフェア
事業主体 (連絡先)	信州中野おごっそフェア実行委員会 事務局 信州中野商工会議所 中野市中央 1-7-2 0269-22-2191
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	21,712,810 円 (うち支援金：4,400,000 円)

#### 事業内容

中野市の食を通して市外県外へ中野市の魅力を発信しPRすることを目的として始まった。  
令和元年 10/26・27 に中野市防災広場にて第4回目となる「信州中野おごっそフェア」を開催した。

##### 【イベント内容】

うまいもんブース・ステージイベント・YEG ノ DASHIMONO・AMAZAKE フェア+発酵ブース・JA youth Marche・おごっそす〜ぷ販売・ワークショップなど、中野市の魅力をPRする企画を実施した。

◇うまいもんブース出店者は中野市産の食材を使用または販売する“イチオシ!メニュー”の販売を条件に約40ブースが出店。また、イベント前にはキャッシュレス推進としてQRコード決済を導入するためのセミナーを出店者に向けて実施した。当日屋外イベントでありながら会場内でQRコード決済使用可能ブースが11ブースとなった。

◇中野市内で製造している甘酒6種類をミニカップで飲み比べセットとして販売。また、発酵食品の製造が盛んな長野県をPRするパネル展示も実施した。

◇市内若手農家が作った農産物の販売を行い、来場者が自宅からも農産物を購入できる生産者の顔写真とQRが載ったリーフレットを配布した。

◇ステージイベントでは、今年は新たにサブステージとして芝生広場を活用。多様なコンテンツを分散させ、子供から大人までが楽しめる雰囲気を作った。ご当地ヒーローとして今年誕生した「倍増戦士ロゼ」のヒーローショーを実施。おごっそフェアオリジナルシナリオの実演と握手会&カード配布を行った。地元高校生によるスキー部のPRをステージで実施。活動の報告やスキー道具の紹介を行った。今年二回目となるN-1グランプリでは中野市のおごっそナンバーワンを決めるため7名の出場者が自慢の一品をプレゼンした。



【会場内の様子】



【AMAZAKE フェア】



【チラシ】

【連携】

他団体との連携を試みることを昨年より引き続き行い、今年も千曲川・高社山 SEATO SUMMIT の開会式シンポジウムを当会場内で実施した。

【宣伝広報】

昨年より効果が出始めている SNS を活用した広報活動を積極的に行った。(HP 更新19回・FB 更新34回・インスタ更新56回) 更新回数を増やすことで多くの人目に触れる機会を増やし「シェアして拡散していく宣伝広報」を行った。

【イベントレポートブック】

冊子を手にした人と信州中野おごっそフェアを通じた新たな可能性につなげる狙いで、昨年から作り始めたイベントレポートブックを今年も作成した。内容は当日の様子や出店事業者の紹介など。

【目標・ねらい】

①地域資源を地域価値へ  
～資源を活用しブラッシュアップ  
そして地域価値の充実へ～

②市民協同参画  
～魅力の発見と共有 みんなの郷土愛を発信して自慢しよう～

③交流人口の増加  
～交流人口の増加 多種多様な交流を中野市で活発化させよう～

この三本柱をおごっそフェアに携わる全ての人の共通目標・方針として取り組んだ。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

【来場者数について】

来場者数 10,015人 (H30 15,000人)  
市外県外来場者割合 44,9% (H30 44.6%)  
今回、近隣市町村や当イベント会場である中野市に台風19号の被害が発生し、近隣市町村では様々なイベントが中止となり、自粛の雰囲気が漂う中、苦渋の決断で開催した。結果、来場者数は目標に達しなかったが、市外県外の人々の割合は増えた。これはSNSを活用した広範囲へ向けた広報活動や、他団体との連携の結果である。遠方からの来場者の中には「お見舞いの気持ちも込めて来場した・大変な中での開催の決断を応援したい」との声もいただいた。このような状況でも立ち止まらずに前に進もうとする中野市を伝え、発信することができたことは大きな成果であるといえる。  
今回四回目の開催を迎え、リピーターの割合が増えた。これはこれまで培ってきた知名度と安心感が醸成されたものであることが証明できた。

※自己評価【 B 】

【理由】

イベント計画中は集客や昨年の問題点の改善へ取り組んできたが、開催二週間前に発生した台風の被害が開催地の中野市にも起きたことにより、当初のねらいや目標だけでなく、開催に向けた地域住民への理解を得ることが大切となった。その対応策として緊急文書の発信や会場内での義援金募集を行ったことで、多くの方にご理解いただくことができた。来場者数は目標数を下回ったが、予定していた効果は得られた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

10月に中野市で食のイベントを開催しているという認識はこれまでの過去四回の開催実績により、認知され始めている。次年度は5回目の開催となるが、これまでに増やしてきたリピーターをどう保持していくか、また「おごっそフェア」に対する安心・安定感をマンネリ化させずに、過去に培ってきた知識や経験を活かしながら常に新たなチャレンジを試みていき、中野市の魅力を発信し続け中野市のファン・おごっそフェアのファンを増やしていく事で今後の中野市の地域活性化につなげていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。  
「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた  
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある